



梨の木川柳会

川柳かわら版  
自選句集  
第12号 令和4年10月

講師 大阿久 孝

乳液も要らぬ若さが引きつける  
遍路道に同行二人妻も老い  
下請けの工場は妻も汗みどろ  
都会から嫁薄味にならされる  
庭先の野菜を老いが持て余す  
絶やさぬ笑い笑み善人と見間違  
パン屑を置いて雀と知らぬ鳥



武田 けいこ

浮かぶ笑みえくぼと共にこぼれ落ち  
ウクライナ分けてあげたい春うらら  
ごめんねと言葉にならずしゃくりあげ  
板塀の穴が覗いてくれという  
お得だと言われ手を出し損をする  
不祥事を何度詫びても嘘っぱい  
軽快なドラムに合わぬ腰の振り

渡辺 三子

この先はいかほどありや老いの坂  
五月雨が出番促す蛇の目傘  
梨送り一年ぶりの里帰り  
情けなや布団のすそにつつまずく  
碁敵の三味線だらうばやし節  
つい力むテレビ機数の大相撲  
人の世のわれも雑草一括り



鷹野 えつこ

右折禁止おいでおいでと呼ぶポリス  
式典で手足同時に右左  
重なり合う傘の隙間で肩濡れる  
助けてとカメラ見つめる避難民  
私だつてマスクをすればいい女  
ワクチンも三回目では慣れたもの  
シャンプー台至福の時は月一度

上領 なすび

晩酌は庭で虫の音夜半の月  
川柳をつくる人皆自句自賛  
川柳をひねる老後のひまつぶし  
高齢者不要不急でひきこもり  
今日もまた猛暑日家でひきこもり  
いつか使ういつか使うがゴミの山  
終活も元気でないとききません



納田 千晶

事故なしで免許返納晴れ晴れと  
コツコツと貯めた虎の子詐欺に  
留守電に母によく似た姉の声  
くどいほど言つて聞かせる親心  
踏みちがえ詫びても命戻らない  
古女房昔流し目今つり目  
湿布薬用意してから孫の世話

石毛 ひろし

夫婦茶碗大きい方が妻のもの  
弁当の隙間に添える母の愛  
そう急くな今日はまだまだ日が高い  
老楽し金のなる木に囲まれて  
もう私名前変えまますいぬふぐり  
これ以上寄るなと妻のデイスタンス  
月見酒昭和の唄をひとくさり

林 もとこ

国訛り心を癒やす玉手箱  
薬より五体の癒やし酒が効く  
長年のお付き合いです貧乏神  
列島をピンクの筆で塗る桜  
どうしよう隣の席にかわいい子  
試着室無理に押し込む腹回り  
くじを買いカネのなる木に肥やしやる

吉田 洗尾

階段で旅行カートの駄々をこね  
眠ったナ抱えた吾が子石になる  
年寄りの長風呂そつと子が覗き  
腹の中やたらきれいと内視鏡  
老化かな足に地球が引っかかる  
草書体読めないままに見る個展  
美人より丈夫そうだな妻選び



倉田 くに子

休み明けいつもの朝の駅遠く  
子育てが尖った人を丸くする  
園児達まるでカエルガモ遊歩道  
早朝の珈琲の香の独り占め  
大皿に揚げ物山と盛った日々  
つぶやきがあつという間に世界中  
新米の旨さ際立つ塩むすび



諸岡 ちえこ

頭から突つ込む球児に顔そむけ  
辛抱は人の為ではないらしい  
立ち会いの合わせる呼吸神業だ  
テロの国インスタントの兵集め  
ラッキーと思う一番亭主運  
ゆらゆらとカモメが先達花筏  
キツネさん木の葉のお金少しでも

原島 スベル

ネジリバナ一人咲いてる野球場  
里山の景色忘れり感染禍  
まだ懲りぬ政治の季節カネが舞う  
プーチンは国際法でジャッジする  
違反です左歩行が当たり前  
「ノーウォー」プーチンまでは届かない  
停戦へ小さな声を届けたい

課題吟 「健康」



良く食べて良く寝て妻と一万歩  
まだいける沢庵噛める歯に感謝  
目覚ましに寝息合わせて起きぬ妻  
ウトウトは脳が喜ぶ休息時  
健康のために通販買ひあさる  
血圧の薬横目に煙草吸う  
薬飲んだ声を掛け合う老いの朝  
四季の花めでつ今日も一万歩  
口だけが健康だから嫁が泣き  
この先も今でできること楽しもう  
健康に必ず笑顔ついてくる  
囲炉裏端むかしの景色今はもう

月例川柳句会の見学のご案内

毎月第二月曜日午後2時から開催して  
る句会にお出かけになります。  
場所 まなびプラザ会議室  
見学ご希望の方は、左記まで電話下さい。

吉田 洗尾(会長)

電話047(443)4552まで。

(なお、鉛筆、消しゴムを持参ください)